

2023年度イタリア短期留学報告まとめ（成果報告）

（派遣学生のレポートをまとめたものです。）

2022M1104 江尻太希

イタリアのトニーオートでの研修は、文化と生活を同時に体験しながら、新たな技術や価値観を獲得する素晴らしい機会でした。イタリア人の仕事ぶりは、適度な柔軟性と真剣さを兼ね備えており、そのバランスを取る器用さに驚きました。そして観光ではイタリアの美しい街並みを訪れました。印象に残る建物が多く、とても刺激を受けました。

まず、トニーオートでの研修では、サンドブラスタを使った研磨作業やフェラーリの足回りの整備、クラッチのメンテナンスなど、様々な技術を身につけました。イタリアのフェラーリ職人たちの技術の高さに触れることができ、その熱意に刺激されました。

フェラーリ等の高級車の板金とラッピングの工場を訪れ、そこで高度な技術や職人技に触れることができました。その工場の訪問は、自動車製造の魅力に触れるだけでなく、職人たちの情熱と技術に関して沢山学ぶ事がありました。

一方で、イタリアの労働文化には興味深い側面もあります。午後から仕事があるにも関わらず、ランチタイムに酒を飲むことや、昼の休憩を2時間も取り、その間でのコミュニケーションを大切にしている姿勢に驚きました。これは私にとって新しい経験であり、異文化理解の一つとなりました。

美しいイタリアの風景も、とても美しかったです。ローマ、ミラノ、ベネチアなどの歴史的な都市を訪れ、その美しさに魅了されました。再訪したいという思いが強くなりました。

さらに、イタリアの料理は世界的に有名であり、その味わいには感動しました。印象に残ったのは、ラザニアや本場のピザ、テイジェッラやパニーニ等です。イタリア料理はどこのレストランで食事をしても、どこの家庭に招待されて食べる料理でも、全てとても美味しかったです。口に合わない物がなく驚きました。

まとめると、この留学を通じて、自分の価値観や視野が大きく広がったことを感じています。異文化の中で学ぶことは、自己成長にとっても大きな役割を果たすと考えます。イタリアの豊かな文化や美しい風景、素晴らしい料理に触れることができ、とても良い経験だったと感じています。この経験を通じて、私は自己理解を深め、将来への展望を明確にすることができました。イタリアでの学びは私の人生に不可欠なものとなり、これからも活かしていきます。そして機会があればまたイタリアを訪れたいです。

スーパーカーの整備を行なった。私は基本 550 マラネロの整備をした。初めはギアボックス以降全部降りていてエンジンのヘッドから上も付いていなかった。最初はインテークマニホールドを付けた。塗装をしなおしてみたいだった。その後は点火プラグを付けクラッチを取り付けた。クラッチカバーの清掃、取り付け。整備実習の知識が役に立った。言葉がわからなくても何がしたいのかが伝わるのだ。その後はクラッチのエア抜きやアイドラプリーとテンショナーのベアリングの交換などを行なった。仕事量は少なかったがハードな仕事が多かった。

トニーオートでの研修でも多くの学びがあった。第一に昔の Ferrari の構造に驚いた。構造がレーシングカーそのままだった。エンジンは簡単に下りるし、足もごそつと外れる。結構整備性が良かった。ドライブシャフトはボルトだけで止まっているし、タイミングベルトは内装を外せばアクセスできる。私が乗っている車よりよっぽど整備性が良かった。壊れる事が前提であるかのような作りだった。今の Ferrari はそんなことなかったが。構造が簡素である事には変わり無かった。1番驚いたのではないものは作ることだ。燃料ホースや配線はもちろんボルトや簡単なものなら自分たちで作る事が当たり前らしい。それにパーツ清掃がすごく丁寧なことも驚いた。正直イタリア人は少々雑なものだと思っていた。しかしそんな事はなかった。外した部品はほぼ全てサンドブラストにかけてその後、化学薬品を使って清掃する。新品同然になるように掃除する。イタリア人は意外と丁寧なのだと感心した。

この経験を活かし今後の実習また、社会に出た後も正確で丁寧な仕事をしていきたい。

初めてイタリアに行った、イタリアの人に会った、文化に触れた、生活に触れた。イタリアの人と食事をし、仕事をし、観光をした。イタリアの人はいい加減で適当だ。しかし、やる事はしっかりやる。本当に不思議だ。真面目に自分を追い込んでいる日本人が馬鹿に思えてくる。イタリアは日本みたいに便利では無い。ネットは遅いし、時間通りに進まないし、街は汚いし。だが、みんな幸せそうだ。この国は不思議な国だ。

僕は無い英語力を精一杯使って必死に話をして友達を作った。車好き同士なので言葉で伝わらなくても、なんとなく言いたい事がわかった。彼らは日本車好きが多かった。GT-R や Supra はこっちでは憧れの対象らしい。シビックやトレノ、32GT-R に乗ってる人もいた。彼らに Ferrari はどうだと聞いてみた。そうしたら、(別になんとも思わない。こっちにはゴロゴロいるぜ)と言われてしまった。どうやら日本で 86 を見るのと同じ感覚らしい。Ferrari 校の学生にも同じことを聞いてみた。やはり同じことを言っていた。日本の道の綺麗さに気づいた。イタリアの道は穴ボコだらけ。SUV が流行る理由がわかる気がした。日本は時間にきっちりしている。イタリアは時間にルーズだが、別に困った事は一度もない。物価も税率も日本よりうんと高い。だけど文句を言う人はいない。

別に税金が市民の生活の補助になっている感じも全然ない。日本は物価も安いし便利なのにみんな不満そうに文句を言っている。なんでやろ。ほんまに。確かに日本は便利だがなんだかおかしい感

じがする。なんなのだろうこの感覚は言葉にし難い。国民性の違いなのだろうか。ここにいるとなんだか日本に帰りたくなくなってしまう。賑やかだしご飯が美味しいし。ただ、ラーメンと温泉が恋しく思う。

2023A1432 松井温飛

インターン先では、全くイタリア語も英語も話せずとても不安でした。ジェスチャーで作業内容を伝えられその作業をすると言う流れでした。最初はボルトナットを緩め、締めると言った作業、足回りの分解、部品庫兼ガレージの片付け、掃除、ボルトナット、ワッシャーといった小物やアップパー、ロアーアームやブレーキローターなど作業を行いました。印象的だったのは、インパクトをつかっても外れないボルトがあり困っていると、イタリア人はスパナとハンマーを持ってきて殴りながら外しました。あまりの豪快さに笑っているとイタリア人はイタリアンスタイルと言っていました。僕は時にはこう言った強引さも必要なんだと思いました。

海外研修を終えて感じたことは食文化が全く違うと感じました。自分は夏も海外研修に来ましたが、夏は旅行感が強かったけど今回はホームステイに加えいろんなイタリア人の方の家に招待していただくことが多く、レストランで食べるのとは違ったイタリアの普段の食生活を体験できました。こそこで知ったのはイタリアは食べたいものを好きなように食べれないということです。イタリアの家庭では最初にパスタやリゾットなどの主食を食べて、そこで使った皿は片付けてから次のメインを食べると言う順番が決まっているので。最初に食べたパスタなどが食べたくても皿を片付けてしまうので食べられません。ホームステイ初日にそれを知った時は全く理解ができずとても困りました。しかし郷にいつかは郷に従ってことでその通りに食べてました。その生活も一週間もすればなれてきました。そして次に知ったのはパスタはすすらないということです。日本ではすすっていたのでパスタをすすわないで食べるのはなれずとても食べにくかったです。しかしパスタの本場ではすすらないと言うことで日本でもすすらないで食べようと思いました。

そして仕事面で思ったのはイタリア人は意外と真面目と言うことです。勝手なイメージでしたがイタリア人はマイペースで仕事をすと思ってました。イタリア人はオンオフがとてもしっかりしていて仕事が始まり出した時はまだオフでマイペースですがオンのスイッチが入るととても集中して仕事をしていました。そして終わる時間になってもキリが悪かったりするとその作業が終わるまでやりました。そしてトニーおーとの人とご飯にいった時にご飯中の会話が全く違ったので仕事の時とそうでない時のスイッチがとてもしっかりしていると思いました。そして掃除でも隅々までやっていて日本人よりも几帳面と感ずることが多々ありました。トニーオート以外でも街にあるお店は朝が早く夜が遅いお店が多かったです。そんなところからイタリア人は真面目だと思いました。今回の研修でイタリア人とたくさん交流ができ良かったです。